

聖ヨハネ学園

後援会
だより

40

発行：聖ヨハネ学園後援会
〒569-1032 高槻市宮之川原2-9-1
TEL&FAX 072-687-0548

2019年度新採用者のみなさんと

ミス・ブール墓前礼拝に想う
志の高い人々との出会い社会福祉法人聖ヨハネ学園
チャプレン 司祭
ジヨージ林 正樹

3月16日(土)に6名の青年が聖ヨハネ学園を卒業して、社会に旅立って行かれました。残念ながら出席できませんでした。卒業生がお別れの言葉を語った時、聖ヨハネ学園のことだけでなく、大阪聖ヨハネ教会との繋がり(正月やイースター)の礼拝・行事に出たこと、夏のキャンプに参加した喜び、毎年のクリスマス・プレゼント等)に対する感謝の気持ちもあつたことを教会の信徒の方々から伺うことができました。

私のチャプレンの初仕事は、4月6日(土)豊中市服部霊園外国人墓地でのミス・ブール先生の墓前礼拝でした。学園生徒・関係者や母体である大阪聖ヨハネ教会の信徒の出席者が集い、桜満開の晴天の午後、小高

い丘の上で聖歌(愛の業は)を賛美し、聖書のみ言葉(種まきのたとえ)からメッセージを伝えました。

リーラ・ブール先生が天国でその様子を見ておられたら、優しく微笑んでくださっているのではないかと思います。先生は、明治21(1889)年5月にアメリカから、大阪の女性を育成する教師としての使命をもってやって来られました。神様から与えられたミッシェルを忠実に果たしてゆかれました。

1924(大正13)年4月20日に大阪の築港(現在の港区)で76歳で逝去されました。「献身」という言葉があります、自分をすべて神様のために献げるといふ生き方を実践したのが女性宣教師・ミス・ブール先生

でした。

最も大切なことは、ブール先生が神様の手足となつて、神様のなさろうとする愛の業を第一に社会奉仕をしていたということです。

聖書(マルコ福音書)の「種まきのたとえ」には、一生懸命に神様のみ言葉・み心を人々に伝えても、芽も出ない、すぐ枯れるという辛いことも多かっただろうと思います。ブール先生は、神様の言葉という種を人々に、特に聖ヨハネ学園の子供たちや指導者・支援者の皆さんの心に、忍耐強く蒔いて行かれたのです。

130年前に大阪の土地に蒔いた種が、卒業生の感謝の言葉になって、芽を出しているのではないかと思います。

聖ヨハネ学園の130年の歴史で蒔かれてきた無数の種が、未来にどのような芽を出すかは分かりませんが、水や肥料を与え、土を耕すたゆみない努力を、ヨハネ学園関係者や後援会の皆様と共に、これからも地道に継続してまいります。ご支援・ご協力よろしくお願いたします。

社会福祉法人

聖ヨハネ学園

卒園生に泊まる所を

後援会 副会長 東 敏勝

(聖ヨハネ教会信徒)



聖ヨハネ学園の子どもたちと聖ヨハネ教会との繋がりについては前号に於いて紹介させて頂きました。子どもたちは卒園後もその行事を懐かしんでキャンプやお正月招待にはスタッフとして自費で参加してくれる子ども達がいいます。11月に催される教会バザーにも休みを取り手伝いに来てくれたりして、卒園後も教会との交わりを続ける子どもたちもいます。

聖ヨハネ学園にお正月や夏期休暇時はもちろんの事、5月の連休などに自分たちが育った園を実家感覚で訪ねてくる子どもも多くいると聞いています。殊に、秋に催される『丘のまつり』には

多くの卒園者が来園、スタッフとしての奉仕を通して旧交を温め、まさにその日は同窓会の体になっているとの事。ただ、彼らの話によりまずと、帰園しても日帰りの難しい者は友達の家やカプセルホテル、ネットカフェ等で泊まると聞きました。

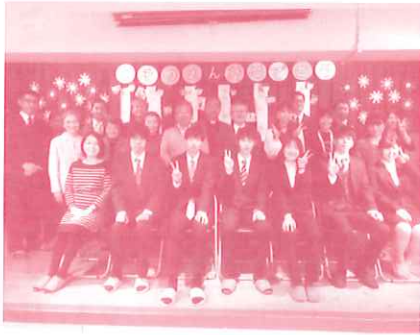
さて、聖ヨハネ学園には、法人の活動を応援する『後援会』があります。その活動については皆様のもとに届けられる『ひびきあい』『後援会だより』等を通してご理解いただき、既に応援して頂いている方も多くおられます事、感謝でございます。付きましたは、久しぶりに帰園してきた子どもたちの為に実家である園に泊まる場を、また、何らかの理由で職場を離れる事になった子どもにも一時的な生活の場として提供してあげられる部屋があれば、卒園生にとっても、心の支えとなるのではと考えます。しかし残念な事に、今の法人にはその要望に応える財政的な余裕がありません。そこで、皆様のご協力を得

る事で後援会が力になりこの要望を実現したいと考えた次第であります。また計画は具体的になっておりませんが、社会福祉法人聖ヨ

六名の子どもたちが高校を卒業。その進路は

T・N君は「日本クインライト株式会社」、R・I君は「株式会社吉寿屋」、I・Mさんは「絹笠商事株式会社」、T・H君は「京都造形芸術大学」、S・Nさんは「大阪ベルエベル美容専門学校」、H・E君は「大阪人間科学大学」で、就職三名、進学三名となっています。

昨年は進学が三名、今年も三名が進学し、大学等の進学を希望する子どもも徐々に増えてきました。その背景には給付の奨学金が増え、学費の負担が少なくなったことも要因だと思いま



ハネ学園の創立130周年を迎えるこの節目の年に、後援会の記念事業として取り組んで行ければと考えております。

六名の子どもたちが高校を卒業。その進路は

す。また、昨年度は女子二名が学園から専門学校に進学し、今年も男子が初めて学園から進学することになりました。色々大変だとは思いますが、卒業できるよう頑張って欲しいものです。さて、土曜会奨学金ですが、昨年度から貸付から給付へ変更していただき、昨年度は女子一名に三十万円を給付していただき、今年度は女子二名、男子一名に計八十万円を支給していただくことになりました。皆様方からの寄付金のお陰で子ども達が進学できることになり、本当に感謝しております。しかし、まだまだ、精神的にも幼く、退学や留年する可能性は少なくありませんし、仮に卒業しても直ぐに皆様のご期待に応えることは難しいかもしませんが、感謝の気持ち忘れず、いつか色んな形で還元できるように頑張って欲しいと願うばかりです。

聖ヨハネ学園
土曜会奨学金
制度とは……

1963年立教大学BSA(聖アンソニエ同胞会)第2支部の皆様が土曜会という活動を通して高校進学、特に私学に進学する際の授業料負担に対して奨学金を継続してご支援いただいております。2010年に土曜会の活動を発展的に解消され、その際、学園に対して500万円を寄付していただきました。

みなさまのご意志を「土曜会奨学金」として学園の子どもたちの進学奨励金制度として発足しました。学園後援会からも賛同を得て、2012年度から年間30万円を基金に拠出していただいております。ここに「ご寄附いただきましたみなさまに感謝とお礼を申し上げます。

今後子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。

うの花療育園

立派な鯉のぼりを
いただきました

この度、後援会の皆さま
のご寄贈による鯉のぼりに
ついて、園児さんの声や反
応をご報告いたします。

・空に泳ぐ鯉のぼりを見て
指を指し「あー」と喜ぶ。
・鯉のぼりを見ながら「鯉
のぼり」の歌を大人と一
緒にうたい、手を叩いて
喜んでいる。

・鯉のぼりの数や色とりど
りなのを見て、「〇〇い
ろ、大きい」、「小さい
の〇〇色」

・鯉のぼりが雨天等でない
と、「鯉のぼりは？」と
悲しそうに聞く。
など、園児さんにとって
欠かせない存在感を放って
います。

後援会の皆さま、素敵な
鯉のぼりを本当にありがと
うございました。



本部および各施設に

ご協力いただいた方々

〈敬称略〉

(期間二〇一八年四月一日～二〇一九年三月三十一日)

〈本部〉

- 阿佐建築工務(株) 新井 正江 石井 英隆
- 石田 美郎 伊勢田 健
- 市川あや子
- 井上 眞也・美津
- 岩田幼稚園 上村みちえ
- 上村サト子
- 大阪教区連合男子会
- 大阪聖愛教会
- 大阪聖パウロ教会
- 大阪聖ヨハネ教会
- 大西 修
- 学校法人のぞみ学園 天使幼稚園
- (株)ニコニコデザイン 富澤 実
- 川口基督教会 北川 勝
- 木島 出 齋藤 壹
- 小西貴美子 齋藤 壹
- 酒部 清 佐々木晶子
- 笹部 哲生 佐藤 耕一
- 佐藤 時枝 猿橋 靖
- 清水 幸子
- 聖ミカエル幼稚園 田尻 忠邦
- 竹淵 久子
- 東京教区 聖パウロ教会
- 富山聖マリヤ教会
- 長崎南山学園
- 中嶋 公平
- 名古屋柳城短期大学
- 西田 明子
- 西村 正則・宣子

野知 卓司・千秋

- 平野 聡
- 藤幼稚園 藤村 孝子
- 水貝商店
- 三森 尚子
- 守口聖オーガスティン教会
- 藪内 正明 山下 義一
- 山田 幸子
- (有)レイズ 増田 知乃
- 四葉幼稚園 米満 司郎
- 和田総合会計事務所 和田 浩孝
- プール学院中学校・高等学校 五九件 五二七、〇〇〇円
- 〈聖ヨハネ学園〉
- 山下 義一 裕 俊彦
- 加藤 道三 米満 司郎
- 高橋 興史 加藤 道三
- 松崎 汎邦 田尻 忠邦
- 栗山 樽子 砂田 直成
- 瀧本 鳥子 金沢 真
- 坂田 武宣
- 前田 昌子・享子・典子
- 高橋 興史 春名 恭子
- 三木 靖一 上田 浩子
- 大段紀代子
- 山下 政博・和美
- 大阪電業協会 経営委員会 青年部会

西之川原自治会
愛好代理店

- (株)オーミヤ
- (株)フロリスト花正
- アローム清水店
- (有)フリーマーケット123
- 高槻市ひとり親家庭福祉会
- 清水小学校 職員一同
- 大宝地区福祉委員会
- 防災設備
- 大阪聖アンデレ教会
- 姥谷商店
- 堺聖テモテ教会 女性の会
- 大阪聖ヨハネ教会 女性の会
- 富田林アグネス教会
- (株)万代
- 大阪キリスト教短期大学
- 大阪ヨハネ教会(日曜学級)
- NHK歳末たすけあい配分金
- 四〇件 一、六七九、九五八円
- 〈聖ヨハネ学園土曜会〉
- 奥本 勇
- 愛好代理店
- 佐野 信三
- 東 敏勝・直子
- 石田 美郎 田尻 忠邦
- 小西貴美子 黒川 純栄
- 松崎 汎邦
- 大州幼稚園
- 井上眞也・美津
- 大段紀代子 才木 節雄
- 坂口 鳩子
- 西村正則・宣子
- 宮古聖ヤコブ教会
- 宮脇 弘次
- 平安女学院
- 聖アグネス礼拝堂
- 一八件 四〇四、〇〇〇円

聖ヨハネ学園 創立130周年事業のお知らせ

記念礼拝

日時：11月16日(土) 午後1時
場所：大阪中央区糸屋町
大阪聖ヨハネ教会
司式：日本聖公会 磯 晴久 主教

講演会(法人セミナー)

日時：10月18日(金) 午後6時30分
場所：高槻市宮之川原
地域生活支援センター 光
講師：日本聖公会 竹林 徑一 司祭
テーマ：「聖ヨハネ学園歴史のこぼれ話」



《ミス・ポール記念ホーム》

北清水カラオケ同好会
山田 昌夫 瀬上 桐子

(株)愛弘
福永芽久美 森中 央

岩森かほる 岸本 善男

乾 キクノ 下満 寿美

幸務 幸子 政岡 美幸

高橋 信作 西田 康裕

片山 明美 吉田 正

宮本 誠子 池下 久子

北出 澄子 松崎 汎邦

中塚 孝義 松本 時枝

斉藤 修子 王子 康三

岡崎 幸雄 杉田 博子

池下 信子 山崎 昭利

近森 信人 奥田 惣八

石津自治会 (有) 葵防災設備

坂戸 邦夫 田尻 忠邦

ミス・ポール記念ホーム 四一件 三三、〇〇〇円

(尚、複数回寄付していた
だくともあり、件数は延
べ数で記載しています)

《地域生活支援センター光》
愛弘代理店

浅田 直紀 安達 圭司

安達 哲呂 市川あや子

今井 清信 上村サト子

江畑 誠 大田 順子

加茂 勲 北野 絵美

黒川 敦愛 小林 法司

笹倉 健志 清水 幸子

杉 千エ子 副島 克彦

副島 康子 高谷 秀夫

高見澤 裕 瀧本 島子

田尻 忠邦

近森歯科西武診療所 近森 信人

土井 昭・須美子 中村 健

土井 智仁 柳澤 好輝

中嶋 眺 宮原 順子

茜穂書道会 久永 恵子

平井 幸子 正宗 良宏

文城 誠 三島麻美子

三崎 智美 宮脇 敏

柳澤 好輝 山尾 則夫

後援会にご協力いただいた方々

(期間二〇一八年四月一日〜二〇一九年三月三十一日)

愛弘代理店 暁星小学校 シヤミナード会

秋山 公子 東 敏勝・直子

安達 哲呂 飯塚 美喜

荒川 不二 伊勢田 健

石田 美郎 井上恵美子

井上 眞也・美津 眞信・温子

今中 喜子 上田 浩子

上田 美和 上村サト子

宇野 徹 海野 晴男

恵我之荘聖マタイ教会 江和社保険労務士事務所

大阪聖愛教会 大阪保育福祉専門学校

大段紀代子 岡部 美枝

奥 康功 小野田芳大

吉村 一哉 吉村修治・年子

吉村 浩二 六九件 二、一〇一、三〇〇円

《聖ヨハネ子どもセンター》
愛弘代理店

田尻 忠邦 高野 節子

大段紀代子 三木 靖一

海野 晴男 六件 四三、〇〇〇円

学校法人桃山キリスト学園 桃山幼稚園

影山 章子 片山富美子

学校法人松蔭女子学院 河野 紀子

上村みちえ 北谷 公一

北川 勝 久保川 優

久保 孝彦 黒川 敦愛

黒川 純枝 黒田 寛人

黒田 益弘 高田須磨雄

小出 裕司 込山 章

粉川弥栄子 込山 章

込山 孝子 齋藤 壹

小牟田健三郎 才木 節雄

才木 節雄 齋藤 壹

齊藤 耕一 阪口 鳩子

佐藤 耕一 佐野 信三

佐藤 耕一 佐藤 勇治

島田 尋子 清水 幸子

宗教法人芦屋キリスト教会 上甲 純司

鈴木 慰・満紀子 清心中学校

清心女子高等学校 聖バルナバ病院 礼拝堂

瀬戸 栄一 高木 弘子

竹林 徑一・敏子 田中 幸二

田尻 忠邦 田中 幸二

田淵 創 東洋英和女学院 中高部

戸部 依子 富谷 晋

中尾由紀子 中芝 永次

中島 将雄 中西久忍夫

中野香津子 日本キリスト教会

日本キリスト教会 西宮中央教会

野知 卓司・千秋 大阪教区婦人会

長谷川加代子 廣永 浩美

長谷川輝男 藤村 孝子

福永芽久美 文城 誠

古本純一郎 宮脇 弘次

南 知子 武庫之荘幼稚園

宗像千代子 宗像 弘子

森 一太 山下 義博・和美

山下 義一 山下 義博・和美

山田 護・郁子 米満 司郎

一一九件 五一九、一六〇円

(尚、複数回寄付していた
だくともあり、件数は延
べ数で記載しています)

「後援会だより」④

●発行 社会福祉法人 聖ヨハネ学園後援会
〒五六九一〇三二 高槻市宮之川原二一九一
●電話・ファックス (〇七二) 六八七〇五四八

2018年度 (2018年4月1日~2019年3月31日)

社会福祉法人 聖ヨハネ学園後援会 会計報告

後援会会費	97件	¥341,000
一般寄付金	10件	¥61,160
クリスマス寄付金	12件	¥117,000
合計	119件	¥519,160

上記金額を、聖ヨハネ学園本部会計の金収入に繰り入れました。

後援会《入会要項》

年間会費 1) 個人会費 1口 2,000円
2) 団体・法人会員 1口 10,000円
いずれも、何口でもよろしくお願ひします。

入会方法 振り替え用紙でご送金いただくだけでも
会員登録させていただきます。
郵便振替口座=00910-5-5789
加入者名=(社福) 聖ヨハネ学園

寄付控除 ご寄付は次の法律により税法上の優遇措置が受けられます。
所得税法第78条第2項第3号該当
法人税法第37条第3項及び第4項第3号該当

